

# 社会を明るくする運動

法務省が主唱する「社会を明るくする運動」。市内の小中高校生を対象に犯罪や非行のない地域社会づくりをテーマに作文を募集しました。広報きくち9月～10月で各部門の最優秀作文を紹介します。

## 中学生の部 最優秀作文 やり直せる未来を

菊池北中学校3年 まさの よういち 牧野洋一さん



犯罪者と聞いて、皆さんはどのように感じますか。多くの人は「犯罪者＝悪い人」だという印象を持つでしょう。しかし、私はそうは思いません。例えば闇バイトに間違えて応募してしまい、個人情報を知られ、家族や周りの人の身に危険が及ぶかもしれないと思えば、嫌でやりたくないけれど、やらなくてはならないと思ってしまうという報道を耳にしたことがあります。

また、私は罪を犯すということとは誰かへのSOSなのではないかと考えます。お金が無くて生活もできない人が、最終手段として窃盗や強盗などの犯罪行為をしたり、今の生活から逃げたい気持ちや心の不安定さが人を殺害したりすることのきっかけになることもあります。私も小学生の頃、家族とのけんかで悲しくなったりイライラしたりして、母を泣かせてしまったことがあります。

罪を犯した少年たちは、少年院に行きます。そこでは主に改善指導や生活指導などの社会復帰に向けたさまざまな訓練や指導が行われます。時間を守り方や就きたい仕事に向けた訓練を行い、罪を償うとともにこの先同じ過ちを繰り返さないように、社会の一員として生活できるような取り組みが行われているそうです。

しかし、罪を犯した人が出所後もみんなと同じようにはありません。会社の面接などで、履歴書を見て不採用になることが多いそうです。私は、それはおかしいことだと思えます。しっかりと罪を償った上で、罪を犯す前の生活に戻ろうとしているのに、社会は受け入れてくれません。そうしているうちに、罪を犯したときの悪い環境に戻ってしまい、再び罪を犯すのではないのでしょうか。

もし、自分がその立場になったらと想像すると、生きているのが嫌になると思います。だから私は、今の社会に必要なのは罪を償い出所した後の生活のフォローだと思います。



# 子ども議会

8月1日

中学生が模擬議会の体験を通して、議会や行政の仕組みを理解する「子ども議会」を毎年開催しています。

【問い合わせ先】  
生涯学習課 ☎0968(25)7232

### 子どもが大人に 菊池の未来を問いかける

8月1日に、市内5校の中学校から4人ずつと、議長役1人の計21人の中学生が、市議会の議場で模擬の議会を体験しました。

各中学校から2問ずつ質問があり、市の施策やまちづくりについて、疑問に思ったことや子ども目線でのアイデアを提案。子どもの睡眠時間確保のための施策提案や地域の伝統芸能の取り組み、地域のブランド戦略に関する提案など、生徒たちの独創的な提案や質問がありました。市長や教育長をはじめ、市

執行部は、質問に対して現在取り組んでいる事業や課題などを説明。皆さんと一緒に考えていきたいと答弁しました。これまで、子ども議員の提案から市の施策として実現したものもあります。子ども議員たちは、議会を体験することで、市議会・行政の意義や仕組みを理解し、自分たちが住む菊池市のことをより深く考えることができました。今後の学校生活と地域への貢献の励みになることを期待します。

今回を含め、これまでの子ども議会を二次元コードから見ることができます。



### 自分を成長させる きっかけになりました！



議長を務めた  
西山陽菜さん  
(泗水中学校3年)

最初は足が震え緊張しましたが、子ども議員の姿を見て緊張が解け、進行することができました。市への理解が深まり、成長するきっかけを与えてもらいました。



子ども議員の質問の内容や感想は「議会だよりvol.82」(左記二次元コード)で、紹介しています